

インドとニューデリー日本人学校 人生観を変えた濃厚な3年間



平成20年度派遣
平成20年4月～平成23年3月



岩内町立岩内第一中学校 教諭 梶原 大

1. はじめに


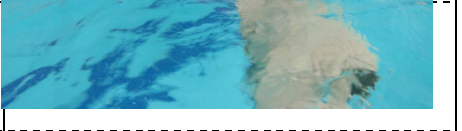


『ナマステ〜』皆様も知っているでしょう挨拶の言葉。しかし更に尊敬の意味を込めると『ナマスカル』となる。平成20年度から3年間ニューデリー日本人学校で勤務いたしまして、標題の通り、人生観を変える有意義なものとなりましたし、多くの方々に支えられて生活できたことに感謝しつつ、この報告書を執筆いたしました。皆様のインド及び日本人学校への興味への一助になればと思います。

2. ニューデリー日本人学校での水泳授業

4月から9月の約半年間、週3回体育のうち2回を水泳授業に当てているので、全く泳げない児童生徒もみな一様に泳げるようになります。中学部で習熟度別学習では50分1単位あたり1,000M以上も泳げる生徒がいるので、下表のようにグループ毎にメニューが分かれています。

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
総計 1000M 【クロール】 キック 50M フル 100M コビ 200M 【平泳ぎ】 キック 50M フル 100M コビ 100M 【背泳ぎ】 キック 50M フル 50M コビ 100M 【バタフライ】 キック 50M フル 50M コビ 100M 【スタート練習】 クロール 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライ 【ターン練習】 クロール(クイックターン) 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライ	総計750M 【クロール】 キック 50M フル 100M コビ 100M 【平泳ぎ】 キック 50M フル 50M コビ 100M 【背泳ぎ】 キック 50M フル 50M コビ 50M 【バタフライ】 キック 50M フル 50M コビ 50M 【スタート練習】 クロール 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライ 【ターン練習】 クロール(クイックターン) 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライ	総計500M  <p>小学4～6年のプール開き（4月）</p>	総計400M  <p>着衣泳も1年～9年まで全て実施します</p>	個別練習

【着衣泳 中学年用 略案（3年～4年）】

学習活動	発問およびポイント	
1. 集合 2. 挨拶 3. 出欠、健康確認 4. 授業説明 5. シャワー	<ul style="list-style-type: none"> ・着衣泳は「自分の命を守るため」である。 	
6. 水着での背浮き 7. 靴での背浮き 8. 着衣	<ul style="list-style-type: none"> ・「靴は浮く」を確認する。 	
9. ウェイティング 10. 泳ぐ <ul style="list-style-type: none"> ・クロール ・平泳ぎ 11. 着衣の背浮き <ul style="list-style-type: none"> ・背浮き練習 ・伏浮きからの背浮き ・ペットボトル背浮き ・沈水からの回復動作 12. 救助（模範のみ） 13. 着衣での自由時間 14. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・泳がない、脱がない ・浮く ・救助 	<ul style="list-style-type: none"> ・25M ・2種目で25M <ul style="list-style-type: none"> ・「泳ぐのは大変」 ・衣服に空気を入れる練習 ・ <ul style="list-style-type: none"> ・飛び込んでから背浮きへ ・救助と救助の危険性の模範 	 

【校内水泳大会】

9月に行われる校内水泳大会。一大イベントとあって、児童生徒はもちろん保護者も熱が入る。教員チームのリレーで参加するも、児童生徒チームにはかなわない。



日本ではやらない飛び込みもみんな飛び込みます

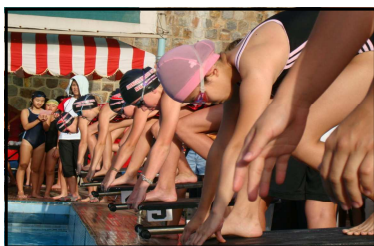


新記録を真剣な眼差しでチェックする児童。



招集の仕事をする児童

【AES（America Embassy School）での水泳大会】



AES主催の水泳大会に招待され参加した児童生徒。アメリカとジャーマンとの対決に国旗を持って応援する児童生徒は、日本人として自覚と誇りをもって旗を振っていた。

3. 柔道教室と柔道交流



【毎週土曜日に行われる柔道教室】

この柔道教室は社会体育として、柔道教室が開かれている。ニューデリー日本人学校を会場としているが、畳はない。そのため、インドで発注した少し堅めのマットを使用して、柔道を行っている。上座右がJICA隊員の指導者。あくまでもボランティアで指導に当たってくれている。週に1度の教室のため、高度な技術指導は行わず、基本を中心とした内容である。現在は女子も増えてきている。また、対象が5年生以上だが、それ以下の学年からの参加要望があり、指導者不足となっている。



インド人の勢いに押されていた日本勢



練習内容は基本が中心



練習後の写真撮影

JICA 隊員の指導者を通して、インド人柔道教室の生徒さんたちと初めての柔道交流を行った。インド人は手足が長く、見た目以上にパワーがあり、日本人はやりにくそうであった。私もインド人の生徒さんと乱取りを行ったが、相手に立ち向かっていこうとする意識が高く、闘争心むき出しでかかってきたのが印象的だった。日本人の見習うべき点だと感じた。



インドの柔道会場（屋外にテントを張っただけ）



インド人からアドバイスをもらっている

ニューデリー日本人学校の女兒道2名がニューデリーの柔道大会に参加した。インドの試合会場は屋外にテントを張り、そこに畳を敷いて行われた。途中雨が降ってきて、この会場は一時水浸しになり、試合が中断した。日本以上に柔道人気があるようだが、「ジウドウカラテ」として、柔道と空手が一緒になったものが一般的である。この大会は柔道の大会であるが、変則的な柔道が多かった。日本で言う少年規定もなかったため、見ていて危険なシーンもたくさんあったが、児童にとっては忘れられない経験となったであろう。